

(財)京都ボーイスカウト振興会

平成20年度事業計画

1. 日本ボーイスカウト京都連盟が行う青少年活動の事業を助成

特に本年は、

- ① 連盟が小学校長期宿泊自然体験学習を支援し、学校教育との一層の連携を図るとともに、多くの子供にスカウトプログラムを提供する支援チーム編成に助成
- ② 指導者の資質向上に繋がるプログラムに助成
- ③ 国際プログラムへの参加促進に関する事業に助成

2. 青少年のスカウト活動を振興させるための普及宣伝活動

3. 当財団の運営する「広河原野営場」の整備

4. その他適当とする事業

以上

收支予算書

1 頁

111 財団法人 京都ボーイスカウト振興会
01 一般会計

自 平成20年 4月 1日
至 平成21年 3月 31日

勘定科目	予算額(A)	前期予算額(B)	増減 (A-B)	比率 A/B*100
【基本財産運用収入】	420,000	400,000	20,000	105.0
基本財産運用収入 (4401)	420,000	400,000	20,000	105.0
〔会費収入〕	2,000,000	2,000,000	0	100.0
賛助会員会費収入 (4433)	2,000,000	2,000,000	0	100.0
〔雑収入〕	5,000	1,000	4,000	500.0
受取利息 (4481)	5,000	1,000	4,000	500.0
【事業活動収入】	2,425,000	2,401,000	24,000	101.0
【事業費支出】	1,630,000	1,630,000	0	100.0
普及宣伝費支出 (4521)	300,000	300,000	0	100.0
諸謝金支出 (4539)	10,000	10,000	0	100.0
助成金支出 (4542)	1,300,000	1,300,000	0	100.0
整備委託費支出 (4545)	20,000	20,000	0	100.0
〔管理費支出〕	355,500	250,500	105,000	141.9
給料手当支出 (4552)	20,000	20,000	0	100.0
会議費 (4563)	130,000	25,000	105,000	520.0
旅費交通費 (4564)	35,000	35,000	0	100.0
通信運搬費 (4565)	30,000	30,000	0	100.0
什器備品費 (4573)	5,000	5,000	0	100.0
消耗品費 (4574)	20,000	20,000	0	100.0
印刷製本費 (4576)	30,000	30,000	0	100.0
光熱水料料 (4578)	5,000	5,000	0	100.0
火災保険料 (4580)	5,000	5,000	0	100.0
租税公課 (4582)	5,500	5,500	0	100.0
雑費支出 (4587)	50,000	50,000	0	100.0
雜支出 (4588)	20,000	20,000	0	100.0
【事業活動支出】	1,985,500	1,880,500	105,000	105.6
【事業活動収支差額】	439,500	520,500	-81,000	84.4
予備費 (4931)	439,500	520,500	-81,000	84.4
前期繰越収支差額 (4941)	350,000	300,000	50,000	116.7
【次期繰越収支差額】	350,000	300,000	50,000	116.7

平成20年度 京都連盟事業計画(案)

《基本方針》

—よりよいスカウティングをより多くの青少年に—
スカウティングの原点を踏まえ魅力あるスカウティングを計画的に展開する。

《重点目標》

- ◎ スカウト運動の基本を大切に加盟員数を拡大する
 - ・京都連盟内各団は「中途退団者－0」を達成しよう！
 - ・スカウトは人に役立つ活動をしよう！
 - 友人と進んで社会参加をしよう！
 - 友情バッジを獲得しよう！
 - ・指導者は 指導力のレベルアップにつとめよう！
 - 青少年に国際的視野に立つ楽しいプログラムを提供しよう！
 - ・京都連盟は スカウト教育法の正しく理解し、国際性に富む指導者の育成につとめよう！
- ◎ 京都連盟のめざす国際性到達目標を設定する。
「見えるみえる世界が見える。 わかるわかる地球がわかる。」
国際都市京都で活躍する青少年を育成しよう！

《コミッショナーの教育活動目標》

- 1, 魅力あるプログラム研究・開発
指導者がスカウトに対して教育的効果が上がるプログラムを研究・開発し、魅力あるプログラムを展開できる。
《部門研究》
 - カブとボーイの「部門間上進プログラム」の研究
 - ボーイ部門の「長期キャンプ」実施に向けての研究
 - ベンチャースカウト部門プログラムのボイスカウト部門との一貫性、継続性を考慮した一体的な改善の研究
 - ローバースカウト年代を対象とする全国組織の設立の研究
- 2, 指導者の資質の向上
全ての指導者（団指導者）が「基本原則」を理解し、「何のためのスカウティングか？」 「誰のためのスカウティングか？」の考えを基に活動できる。
- 3, 団活性化への支援
全ての団が加盟員数70人（内スカウト、BVS 7.6人、CS 12.7人、BS 12人、VS 6.2人、RS 6.8人）日本連盟平均団加盟員数を上まわる団組織を構成できる。
- 4, コミッショナーの資質の向上

コミッショナーが活動に必要な能力、心構え、任務を再認識し、コミッショナーの事業推進能力の向上ができる。トレーナーの活用を理解する。

5. 国際的スカウト活動を拡大する

スカウトがスカウティングを通じて国際人としての能力を高め、進んで国際的スカウト活動に参加できるよう支援する。

上記の教育活動目標を基に京都連盟コミッショナーチーム、京都連盟トレーニングチーム内に以下のタスクチームを設置し、協力事業を通じて京都連盟の全ての指導者に支援を行います。

●隊指導者研修タスクチーム（トレーニングチーム）

（任務）定型外訓練としての指導者研修のあり方を検討し、スカウト一人一人に対する教育効果を上げることが、隊指導者の責務であることを、広く認識させるよう援助協力する。

（協力事業）「京都連盟全体ラウンドテーブル」（20年11月16日）

平成19度に行った「京都連盟全体ラウンドテーブル」を京都連盟全部門の指導者によるプログラム研究発表の場として開催する。

（実施機関）指導者養成委員会

（任期）協力事業実施後1ヶ月（評価反省含む）

●隊指導者支援タスクチーム（コミッショナーチーム）

（任務）定型外訓練の各基本課業を再検討および整理し、隊指導者の支援ができる研修会に対し援助協力する。

（協力事業）「デンリーダー研修会」「ソングゲーム研修会」「その他」

（実施機関）地区コミッショナーグループ・各地区指導者養成委員会

（任期）協力事業実施後1ヶ月（評価反省含む）

●団運営者研修タスクチーム（コミッショナーチーム）

（任務）定型外訓練としての団運営者研修のあり方を検討し、団の継続発展の為の方策を研修できるよう援助協力する。

（協力事業）「団委員長フォーラム」（20年6月頃）

「団委員長研修」（20年11月16日）

（実施機関）組織拡張委員会・指導者養成委員会

（任期）協力事業実施後1ヶ月（評価反省含む）

●コミッショナー研修タスクチーム（トレーニングチーム）

（任務）定型外訓練としてのコミッショナー研修のあり方を検討し、コミッショナーの事業推進能力の向上ができるよう援助協力する。

（協力事業）「コミッショナー全体研究集会」（20年7月5日～6日

12月6日～7日）

(実施機関) 県連盟コミッショナーグループ・指導者養成委員会

(任期) 協力事業実施後1ヶ月(評価反省含む)

●トレーニングチーム員研修タスクチーム(トレーニングチーム)

(任務) トレーニングチーム員研究集会のあり方を検討し、チーム員の能力向上を図る。

(協力事業) 「トレーニングチーム全体研究集会」(20年10月4日～5日

21年3月1日)

(実施機関) トレーニングチームディレクターグループ

(任期) 協力事業実施後1ヶ月(評価反省含む)

●国際プログラム研究タスクチーム

(任務) 各部門におけるスカウティングの国際性を向上させるためのプログラムを開発し、国際的視野にたって活動できる人材育成を図る。(コミッショナーチーム)

(協力事業) 「国際プログラム事例発表会」(20年11月16日)

(実施機関) 県連盟コミッショナーグループ・国際委員会

(任期) 協力事業実施後1ヶ月(評価反省含む)

《今年度重点施策》

- 1、 京都連盟100周年に向け、草創期からの諸氏の業績の集大成の推進
知新チームを組織し、年次計画を策定するとともに、資料収集の推進
- 2、 京都連盟の目指す国際性到達目標の推進
団内の年代相応の国際プログラム展開の支援を推進
- 3、 団の組織活性化・拡充への支援
- 4、 学校教育との一層の連携を図り、多くの子どもにスカウトプログラムを提供する。
 - ①「小学校長期宿泊自然体験学習」支援チームを編成し支援する。
 - ②「教員野外活動研修」(仮称)に協力支援する。
 - ③府・市教員、学生の社会体験研修を受諾し、広くスカウト運動の普及を図る。
- 5、 指導者の資質向上
 - ①指導者全体集会(全体ラウンドテーブル)を実施する。
 - ②他団体研修会への積極的参加促進を図る。
- 6、 国際プログラムへの参加促進
 - ①国際フォーラム、国際プロジェクト、日韓米・韓日スカウトフォーラム、海外各種大会などへの派遣、国内各種国際交流プログラムへの参加促進。
 - ②海外スカウト受け入れ協力体制の整備
 - ・ホームステイ受け入れ家庭の拡大
 - ・受け入れスカウトとの交流プログラム支援
 - ③ギフト・フォア・ピースへの参加者の増員
- 7、 ローバースカウトの育成、ユースチームの活性化の推進

8、財政基盤強化拡大への努力

- ① 振興会への加入促進・ボイスカウトカード加入・経費節減などの協力
- ② 外部財源活用の研究

9、5 6 KC 実行委員会、7 NV 京都基地実行委員会の設置

10、緊急災害支援チーム設置の準備

《各委員会の事業・活動計画》

1、組織拡張に関する主な活動目標（組織委員会）

- (1) 団、隊活動を奨励すると共に、県連盟コミッショナーと団担当コミッショナーとの連携のもとに、団担当コミッショナーによる既成団に対する支援を推進するとともに、各地区での新団結成運動を推進する。
- (2) 京都連盟で役員研修・団委員長フォーラム、各地区で団委員セミナーを実施する、とともに支援のあり方を研究し、組織拡充の啓発を図る。
- (3) 広く地域社会の青少年に「スカウトプログラム」への参加の機会と場を提供することをねらいとし、BS野外体験活動や子どもの仲間集団づくりへの積極的参加奉仕を行う。
- (4) 学校や地域の関係諸団体やTVメディアとの連携を蜜にし、学校の地域連携事業に、積極的支援協力する。
- (5) 組織拡充活動の顕彰を行い、各団が「-0」を達成し、多くの仲間を増やし、「ステップアップバッジ」「友情バッジ」を獲得するよう推奨する。
特に、中途退団者減少に精力的かつ積極的に取り組む。

2、広報活動に関する主な活動目標（広報委員会）

- (1) 広報活動を積極的に展開し、スカウト運動の普及に努める。
 - ① 人づくり21世紀委員会に参加し、他団体との連携をとる。
 - ② 各行政区別実行委員のスカウト関係者の懇談会などを催し京都連盟内での連携を図る。
 - ③ 憲章の理念が、スカウト運動の目的に合致することを踏まえて、京都市の枠にとらわれない普遍性の協調できる取組を検討・実施する。
- (2) 京都連盟のホームページの充実を図り、加盟員への情報提供を行う。
 - ① 受信設定の整っていない団に開設を勧め、全団がメール通信を受信できる体制を完成させる。
 - ② 団は、単に情報の受け手ではなく、情報担当者を中心に、「発信」にも活用を促す。
- (3) 広報誌を刊行する。
 - ① B. P. Pressを編集チームを編成し、定期刊行を目指す。

- (4) その他、組織拡張に関する情報収集と発信。
 - ① 京都連盟音楽隊の組織化を図り、活躍の場を提供する。
 - ② 学校へのリーフレット配布、青少年育成に関わる外部団体の媒体への取材協力や寄稿など、継続発展させる。
 - ③ 京都の特徴である大学生への広報活動として、大学コンソーシアム京都や、各大学のインターンシップとの連携を検討する。
- (5) 京都連盟音楽隊の連盟体制として整備、活動の場の提供を推進する。

3、進歩・プログラムに関する主な活動目標（進歩委員会）

- (1) 「What is Shinpo」の普及を図り進歩制度の理解を図る。
- (2) 菊スカウト・富士スカウトの活躍の機会を各地区で設定し、スカウトの進級意欲の向上を図る。
- (3) 各地区と連携し技能章講習会の開催を促進し技能章取得スカウトの増加を図る。
- (4) 信仰奨励講座の充実を図り、宗教章取得を推奨する。
- (5) ホームページの活用を含め、進歩に関する情報伝達の徹底に努める。

4、イベントに関する主な活動目標（イベント委員会）

- (1) イベント委員会の資質向上と充実を図る。
- (2) 京都連盟管理下の野営場及び訓練等の諸設備・資材の充実を図る。
- (3) 社会参加・協力等の活動について、奉仕への参加奉意識の向上を図る。
- (4) 各種大会の充実、ベンチャー活動等に対する支援を図る
- (5) 56KC・7NV 実行委員会を設置し実施計画を推進する。

5、国際プログラムに関する主な活動目標（国際委員会）

- (1) 姉妹提携をしているイタリア・フィレンツェ連盟、韓国・京畿南部連盟派遣を実施し交流を深める。
- (2) スカウトの交流や、海外派遣プログラムへの参加促進をはかり、広く国際感覚を涵養し、国際貢献に寄与するスカウトを育成する。
- (3) 国際ガイドサービスチームの充実を図る。
- (4) 「海外交流報告、プロジェクト発表会」の一層の進展を図り、国際プロジェクト・海外派遣・国際交流事業などへのスカウトの参加意欲を高める。

6、環境に関する活動目標（環境委員会）

- (1) スカウト環境行動スローガンの精神が反映するよう努力する。
- (2) 教育環境プログラムの普及をはかるため、コミッショナーと連携し、環境教育プログラム学習会の充実に努める。

- (3) 京都連盟内の環境教育の在り方や方向性を研究する。
- (4) 環境教育チェックシートを使って、行事や活動を環境の視点から評価する取組の推進。
- (5) 緑のチームの活性化を図り、自然保護、環境保全に関する活動の促進を図る。

7、安全に関する主な活動目標（安全委員会）

- (1) 緊急災害支援チーム設置などの研究を積極的に推進するとともに、社会参加への奉仕を促進する。（20年度重点施策に）
- (2) 指導者を対象とした救急法講習会をさらに充実させる。
- (3) ボーイスカウト活動中の安全対策の徹底化をはかる。
 - ①加盟員の日本連盟傷害共済保険への加入促進
 - ②スカウト作業、行事に於ける衛生安全に関するマニュアルを作成し安全確保を徹底する。
 - ③非常時・災害時における災害ボランティアセンターへの参加や、各種講習などへの積極的の参加を奨励する。
 - ④軽度発達障害に関する学習を通じ、障害児スカウティングの認識を深める。
 - ⑤外部侵入者・不審者など子どもの安全に関する対策を研究する。
 - ⑥救急法講習会開設チームの一層の充実を図る
- (4) 医療チーム規則に基づき、一層のチームの充実を図る。

8. 指導者養成に関する主な活動目標（指導者養成委員会）

- (1) 定型訓練への参加を奨励する。
 - 研修所、実修所の事前課題と奉仕実績訓練の個別支援を強化する。
 - ボーイスカウト講習会に保護者や地域の理解者の参加を促す。
- (2) 定型外訓練を地区で企画実施するとともに、指導者の個別支援を推進する。
 - 副ディレクターは地区コミッショナーと連携して定型外訓練を実施する。
 - 副ディレクターは団担当コミッショナーと協働して、指導者の個別支援を行う。
- (3) コミッショナーと協働してタスクチームを設置する。
 - トレーニングチーム内にタスクチームを設置し、協力事業を通じて全ての指導者を支援する。（タスクチームは、コミッショナー教育活動目標に記載）
- (4) 改定BS講習会の実施
- (5) トレーニングチームの活性化を図る。
 - ① チーム員を増強する。
 - ② 各地区内でチーム学習会を定期開催する。
 - ③ トレーニングニュースを定期発行する。
 - ④ トレーニングチーム研究集会を実施する。

⑤ 指導者研修体系の改定対応を研究する。

9、財政に関する主な活動目標（財政委員会）

- (1) 一層の経費節減を図る。
- (2) 加盟員の振興会加入促進・需品拡販・ボイスカウトカードの利用などの努力をする。
- (3) 振興会への協力要請や企業の振興会加入を促進する。
- (4) 外部財源活用の研究

10、運営に関する主な活動目標（実行委員会）

- (1) 第7回ベンチャースカウト大会実行委員会の設置
- (2) 第56回京都キャンポリー実行委員会の設置